

～三重に生まれ育つすべてのこどもに途切れのない支援を～

# THE 市町支援通信



## 2年目の市町支援グループ ～途切れのない支援システム構築～

### 大人の生きづらさ=子どもの育ちづらさ

近年、我々を取り巻く社会の変化には著しいものがあります。格差社会やめまぐるしく移り変わる経済情勢、様々な価値観が飛び交う中での生活は、我々大人にとって大変ストレスの多いものです。そんなストレスフルな社会の中、大人の顔色を伺いながらの家庭生活や保育所や学校での生活が子どもにもストレスとなっています。

昨今、なんとなく育てにくいと感じられる子や発達障がい児が、増えているということが指摘されています。乳幼児期の「不機嫌・泣きわめき・不眠・多動・飛び出し」等はしばしば親を育児不安にさせてしまいます。誰にも相談できずに抱え込んでしまい、虐待に至ってしまったという悲劇も少なくありません。

これらの育てにくさは、「そのうち何とか・・・」と様子を見守ることで沈静化することがありません。したがって、年齢と共に激化し、「いじめ・孤立・暴言暴力・学級崩壊・万引き・不登校」等に結びついたりもします。たとえ悪意のない言動であっても、それが不適切なものであれば、周囲から叱責や注意を受けることとなります。結果として「自己評価を下げる・自分を理解しようとしてくれない周りに対して怒りがこみ上げる・自暴自棄になってしまう・社会的な不適応行動を引き起こす・自分だけの世界に引きこもる」等の負の連鎖を導き出してしまいます。

このような負の連鎖を導き出さないための有効な方法として、早い時期からその子の特性を把握し、「適切な関わり・自尊感情を高める関わり」をすることがあげられています。

### 発達障がい児に対する途切れのない支援

県では、「子どもの総合施策次世代育成の支援（県民しあわせプラン・第二次戦略計画）」として、発達障がい児に対する途切れのない支援を推進しています。それを具体的に形にしていく実働チームとして、平成19年4月1日、三重県立小児心療センターあすなろ学園「こどもの発達総合支援室：市町支援グループ（以下 市町支援グループ）」が発足されました。今年2年目を迎えたこのグループは「発達障害者支援開発事業」を受け、3年間で目的を実現化させるために設置された部署です。県内市町に「生涯にわたった“途切れのない支援”を提供できるシステム」を協働構築し、早期発見・早期対応が可能な「目利き腕利き」の育成を支援することが課せられています。今年には県に「こども局」が新設され、保健・福祉・教育連携による次世代育成・子育て支援がより強化されます。市町支援グループも昨年に引き続きお手伝いさせていただきます。

→市町支援グループは来年度が最終。ご用命はお早めに！

### 具体的な支援 ～以下のようなことをさせていただきます～

- 1 保健師さんの援助（早期発見・保護者のサポート）
- 2 保育士さん・幼稚園教諭さんには、乳幼児期の気になる子の発見方法・個別の指導計画の作成・保護者のサポート援助
- 3 乳幼児期から学童期への“途切れのない”移行方法の具体的な“支援”
- 4 “途切れのない”システムのために必要な保健・福祉・教育が協働する「こどもの発達総合支援室（機能）」設定の援助
- 5 キーパーソンとなる（保健師・保育士・教員等）の専門性の養成

## 「いいところは伸ばし、苦手な部分は具体的に支援していく！」というスタンス

これまでに協働させていただいた「亀山市、志摩市、玉城町」の3市町は、それぞれの市町に合ったスタイルでシステムを構築され、“途切れのない支援”を展開されています。また、来年から本格的に室をスタートされるいなべ市は、「乳幼児からお年寄りまでが、日本一暮らしやすい市（まち）作りを！」を合い言葉に、チャイルド・サポート計画を試行されています。

それぞれの市町に共通する「いいところは伸ばし、苦手な部分は具体的に支援していく！」というスタンスが、子どもの自己評価を高め、不適応行動を低減させるよい支援を生んでいるようです。

市町の保健・福祉・教育が丸となって話し合い、情報を共有して、部署と部署が連携して進捗しておられるからこそその成果といえるでしょう。

## 新たに8市町が取り組みをスタート！

今年度「川越町・鈴鹿市・津市・大台町・大紀町・度会町・尾鷲市」の7市町（さらに「伊勢市」も参加で全8市町）が取り組みを開始されます。既に、現場への概略説明や支援手法の解説も始まっており、今後は年間計画に基づき、保育所・幼稚園現場への巡回指導や個別の指導計画の立案にまつわる研修会や事例検討会等、具体的な取り組みをしていただきます。スタッフ一同、縦に長い三重県の北から南までを精力的に飛び回る決意でいます。関係市町の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

また、今年度も昨年同様、県内市町を訪問説明させていただきます（既に訪問させていただいた市町もございます）。担当部署の方々には、お時間をお取りいただけますようお願いします。



## まだ間に合います・・・！ ～取り組まれる市町、急増中～

さて、このところ8市町以外の市町からも、「途切れのない支援システム」に関する問い合わせや「システム構築への協力要請」等の相談が増えています。「協力要請の依頼」に関しては、極力「ご要望に応じる」形でお返事させてもらっています。現在、いくつかの市町が検討中という状況です。

また、これ以外にも、市町の関係者からいろいろな相談があります。「保護者への支援、保育所・幼稚園での支援、学校での支援、研修会（講演会・事例検討会）の要請」等が具体的な相談項目ですが、いずれの相談にも応じることが可能ですので、まずは電話（059-234-6700）かFAX（059-234-9361）でご相談下さい。

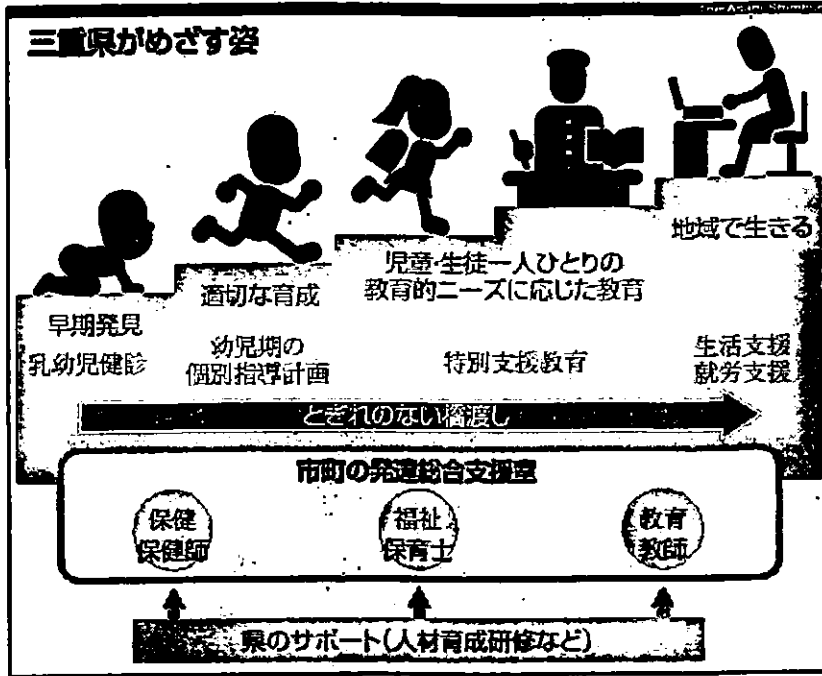
なお、詳しい説明等が必要な場合には、説明に何うことも可能ですのでご相談下さい。

ちなみに、お金はいっさいかかりません。条件は、市町支援グループの援助を受けながら、発達指標を取り入れていただき、市町にシステムを構築していただくことだけです。

## 三重県の取り組み ～全国的に先進的と紹介～

朝日新聞朝刊（大阪版）4月22・23・24日の3日間連載による特集記事「発達障害とともに（反響編）」に、三重県の市町の取り組みが紹介されました。この特集記事は3月6・7・8日連載の特集記事「発達障害とともに」の続編にあたるものですが、この際の読者の反響は大きく（250通もの投書が寄せられた）、今回反響編という形で、家族の思いや願い、周囲の支援、自治体の取り組み等が取り上げられました。早急に具体的対応が迫られている課題であるだけに、全国的にも先進的とされるこの取り組みには、今後も熱い視線が注がれることでしょう。

なお、同記事は、5月16・17・18日付の朝日新聞朝刊（三重版）にも連載されています。



# 安心へ支え合い

## 専門部署、途切れぬ橋渡し

三重県は、県内の各市町に発達障害の相談や支援の窓口となる「発達総合支援室」を設置する準備を進めている。支援室では、発達障害の早期発見のほか、幼少時から成人期まで途切れぬよう、発達障害者を支える。すでに津山市や津市で発達・県健康福祉部なども家庭室による、県全域の市町レベルで専門部署の設置を目指す取り組みは、全国的にも先進的だ。

発達障害の早期発見のため、市町の支援室が中心となり、幼稚園や保育園で発達チェックを実施。必要な子どもには個別の指導計画を作る。「県立小児心療センター」あすなろ学園（津市）内の「市町支援グループ」にて、発達障害支援を担う市町職員の研究を進めている。県は「それぞれの市町に発達障害の目録を照らし、適切な支援を行うこと」を、

上記の新聞記事掲載に関しましては、朝日新聞社様の承諾済です。

2008.4.24 付 朝日新聞 朝刊掲載 (承諾書番号 1829)

## インフォメーション

①平成20年度発達障がい児支援モデル事業「取り組み報告&グループ別研修会」

日時：6月24日（火）13時30分開始

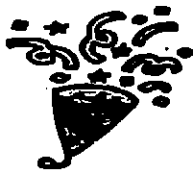
場所：勤労福祉会館（津市）

②平成20年度あすなろ学園、自閉症・発達障害支援センター「合同講演会・シンポジウム」日時 7月31日（木）

・講演会(10:00～11:30) 講師：山登敬之（東京えびすさまクリニック院長）

・シンポジウム(13:00～16:30) テーマ「これからの地域子育て支援を考える～切れやすい子への理解と対応」

場所：三重県総合文化センター文化会館中ホール（開場は9:30）



20年度



# 研修者のみなさん

あすなろ学園では「市町における核となる人材の育成」もお受けしており、今年度は7名の研修者をお迎えしました。内訳は、「いなべ市・川越町・鈴鹿市・志摩市」から保育士さん、「津市」から保健師さん、「いなべ市・名張市」から教員さんです。これにより、市町支援グループは総勢12名の大所帯となりました。あらためて市町の方々の関心意欲の高さを痛感する次第です。研修者には、昨年同様に、1年間の長くて厳しい研修に臨んでいただくこととなります。しかし、その努力はスキルアップという形で確実に実を結び、地元市町の『目利き・腕利き』として、困り感をもつ子どもを“途切れなく支援していく”核となっていただけます。なお、1年間の研修を終えた方には、学園長より「研修修了証」が、知事より「発達障がい児支援システムアドバイザー認定証」が授与されます。また、よりよい支援に繋げていくため、互いの腕を磨く場として「市町支援学会」も近々設立予定です。



## 名張市 西岡 俊充

これまで、小学校で勤めてきましたが、その間学園にお世話になることが何度かありました。その都度、一人ひとりへの個別計画や細かな指導に感心し子どもの変容に驚いていました。今回、自分がそのような場で研修する機会をいただき大変嬉しく思うとともに、気を引き締めているところです。



## いなべ市 藤本充代

いなべ市では、支援システムが整いつつあります。来年度はいなべ市に戻って支援システムづくりの続きを少しでも延長・充実することに努めたいと思います。



## 川越町 稲見由美子

5歳児を続けて2年受け持ったことから川越の特別支援の会議に出席し、途切れのない支援の大切さを知りました。一年間しっかり学びたいと思います。



## 志摩市 川口真由美

一年間の研修を通して専門的な研修を重ね、少しでも地域の支援に役立てるような力をつけていきたいと思っています。志摩市からの使命を受けてがんばります。



## 鈴鹿市 岩間 和美

これから始まる研修と、人との出会いに自分自身を磨き専門性をより一層高めていきたいと思っています。そして一年経って自分を振り返った時、確かに成長した自分に会いたいと思います。どうぞよろしくご指導お願いします。



## いなべ市 藤川里美

保育園・子育て支援センター勤務を経て研修生として一年過ごすことになりました。不安の方が大きいのですがこの歳で新しい事を学ぶことに感謝して夫や母にも協力してもらいがんばっていくと決意しているところです。



## 津市 嵐田まり子

「ドキドキ」「ワクワク」の不安と期待で研修がスタートしました。研修では“スポンジ”のようにたくさんの事を吸収して充実した一年になるようがんばります。

## 第1期！研修者のみなさん ～それぞれの市町にて奮闘中～

昨年1年間あすなろ学園で研修された方々は以下の部署にてご活躍中です。

- 森 順子さん (保育士)・・・鈴鹿市 子育て支援課勤務。
- 谷 礼子さん (保育士)・・・志摩市 ふくし総合支援センター勤務。
- 瀧美修二さん (中学校教諭)・・・亀山市 教育委員会勤務。
- 山口富生さん (小学校教諭)・・・津市 教育委員会勤務。



2008年5月20日

<発行>三重県小児心療センター あすなろ学園 広報担当：こどもの発達総合支援室 市町支援グループ  
〒514-0818 三重県津市城山1-12-3 TEL: 059-234-8700 FAX: 059-234-9361

MAIL: asunaro@pref.mie.jp

URL: http://www.pref.jp/ASUNARO/HP/